

衆議院環境委員会ニュース

平成 25.5.17 第 183 回国会第 10 号

5 月 17 日（金）、第 10 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・石原環境大臣、江藤農林水産副大臣、田中環境副大臣、井上環境副大臣、北村内閣府大臣政務官、齋藤環境大臣政務官、田中原子力規制委員会委員長及び政府参考人に質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

荒井 聰君（民主）

- ・福島での除染に関して、石原環境大臣自身の子供や孫を居住させるとした場合、何ミリシーベルト以下になれば居住させてもよいと考えるか伺いたい。
- ・福島での除染には再任用職員が多く携わっているが、給与水準が退職前より低下するなど労働環境が悪化している。政府のバックアップが必要と考えるが、石原環境大臣の見解を伺いたい。併せて、再任用職員の処遇について人事院が講じてきた対策を伺いたい。
- ・知見が不足している低線量被ばくや除染技術については、チェルノブイリにおける原発事故等の海外の知見を積極的に活用すべきと考えるが、石原環境大臣の見解を伺いたい。

富岡 勉君（自民）

- ・有明海の漁業不振が諫早湾干拓地の潮受堤防の排水門締切が原因とする訴訟について、福岡高裁が出した排水門締切による漁業被害を認め門の長期的開門を命じる判決を菅元総理が突然受け入れたが、当時の農林水産省はどのような対応をとろうとしていたか。
- ・排水門締切による有明海への環境影響の度合いは低く、開門調査の必要性がないことを地元の県や干拓地の営農者等から指摘されている状況下で、あえて長期の開門調査を行う意味について江藤農林水産副大臣に伺いたい。

大久保 三代君（自民）

- ・花粉症対策ともなる高齢杉の伐採、新規植林等の森林管理は二酸化炭素吸収源対策にも寄与することから、環境省も積極的な役割を果たしていくべきと考えるが、環境省の考えを伺いたい。また、森林管理も含めた地球温暖化対策に係る安定的な財源確保に向けて環境省は今後どのように取り組むのか伺いたい。
- ・国産木材の活用が進まない原因として、森林の資源維持から木材の利用に至るまでのサプライチェーンが十分に

機能しておらず、輸入材に比べて安定した供給ができないことがあげられる。このサプライチェーン確立のための支援策の検討について、環境省の見解を伺いたい。

樋口 尚也君（公明）

- ・中国における微小粒子状物質（PM2.5）による大気汚染防止のために我が国ができ得る具体的な支援策について、齋藤環境大臣政務官に伺いたい。
- ・今年 11 月に開催予定の COP19 までに、中長期目標を含む地球温暖化対策計画を策定していく必要があるが、一方で、今後原子力発電所の新規制基準及び新しいエネルギー基本計画が策定されることとなっている。地球温暖化対策計画について、これらの施策とどのようにバランスをとり、またどのような場で議論し、いつまでに策定するのか伺いたい。
- ・「共生的生存権」として環境権を憲法に明示する必要性について、石原環境大臣の所見を伺いたい

河野 正美君（維新）

- ・外国資本による我が国の水源地周辺の土地の買収が相次ぎ、水資源が脅かされている。外国資本による山林購入状況について、林野庁の把握状況を伺いたい。また、民法第 207 条は、土地の所有権はその土地の上下に及ぶとしているが、土地を購入した者は地下水を汲み放題であるという認識でよいか、国土交通省の見解を伺いたい。
- ・東京電力が検討している福島第一原発周辺の地下水の海への放出に関する地元漁業者への説明会では、「地下水と汚染水の違いが分かりにくい」といった意見が出ている。国は東京電力任せにせずその違いを広報活動していく必要があると考えるが、経済産業省の見解を伺いたい。
- ・水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法に基づく申請が平成 24 年 7 月 31 日で締め切られたが、締切後の新規の申請等に対しどのように対応していく考えか環境省の見解を伺いたい。併せて、5 月 1 日の水俣病犠牲者慰霊式に出席した石原環境大臣の所感を

伺いたい。

杉本 かずみ君（みんな）

- ・リサイクル等について環境教育により注意喚起を行っている一方、分別収集しても一括焼却しているところもある。実際の対応と有権者に求めていることにギャップがある現状を踏まえ、今後のゴミの分別・処分の在り方の方向性について田中環境副大臣の所見を伺いたい。
- ・原子力規制委員会の有識者会合が日本原子力発電敦賀原発2号機の原子炉建屋直下の断層を活断層と評価したことに関し、仮に廃炉が決定した場合の廃炉までのプロセスを伺いたい。

野間 健君（無所属）

- ・原子力規制委員会の目的について、田中原子力規制委員会委員長（以下「田中委員長」という。）に伺いたい。
- ・新規制基準に基づく原発再稼働の審査においては、安全性を担保しつつ、時間軸の観点も取り入れて審査を早期に終えることにより、原発の近隣住民の不安を取り除くべきと考えるが、田中委員長の所見を伺いたい。
- ・今年で15回目となる日中韓三カ国環境大臣会合のこれまでの成果及び今後の展望について伺いたい。